

南のひと 26

写真・文＝水野暁子

八重山で共に暮らす島人を撮影したシリーズ。暮らしの中から見つめる被写体に共感と敬意を込めて撮影している。



青空が広がる晴れた日の朝、大潮の満潮の海辺で、青い髪の朱里さんを撮影させてもらった。竹富島出身の内盛朱里さんは、現在 19 歳。今年からオーストラリアのサンシャインコーストにある大学で生態学を学ぶために留学する予定だったが、新型コロナウイルスの影響により留学生受け入れ時期が延期になってしまい、来年の 2 月まで地元竹富島に帰ってきている。

「日本の大学生は、オンライン授業などで新学期がスタートして、同級生のお友達は大学生になっていますが、朱里さんはそのことについてどのように感じたり、考えたりしていますか？」とコロナ禍の中で待たされたをかけられてしまった朱里さんが、このどうにもならない状況の中で、一人でも何を考え、感じているのかを彼女の言葉で聞きたくて、少々不躰とも思える質問を投げかけてみた。

「私も早く大学生になりたいと思うし、新しい人間関係も構築したいと思うので羨ましいです。でも、私はまだ大学生になれない分時間があるので有意義に過ごしたいです。島でバイトしたり海に行ったりして島での時間を満喫しつつ、将来のこともしっかり考え勉強も怠らないようにしたいと思っています。コロナのせいで色々なことが制限されて、私自身も渡航することができないけど、それは私だけではないしどうしようもないので仕方ないのかなという感じはあります。でも正直、早く大学生になりたいです」という言葉が返って来た。

周りの同世代が少しずつ前進しているかのように見える中、一人取り残されてしまったような焦りや孤独を感じる時もあるかもしれないが、この時間が朱里さんのこれからの人生の肥やしになることを信じて、この期間に彼女にしか体験できない物事を竹富島で吸収してほしいと思った。朱里さんが海外で出会う人たちは、彼女をとおして、竹富島を感じ、想像し、知るきっかけを見つけるから。

青い髪の朱里さんは、大きな羽を広げて飛び立つ準備をしている青い鳥みたいだなと思った。

水野暁子 みずのあきこ
1973 年千葉県に生まれる。1986 年に家族とアメリカへ渡る。1996 年 School of Visual Arts (New York) を卒業。1999 年に竹富島に移住。現在子育てをしながら撮影活動中。

●島人へのインタビューをまとめて紹介している YouTube チャンネル「八重山ライブラリー」も。